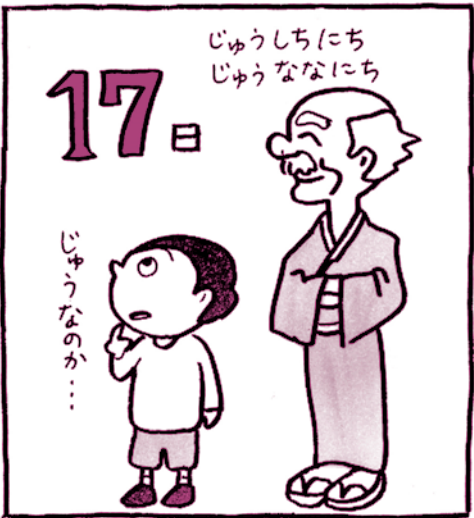


4. ことばの規則と例外

4 日付の読み方 17日は「じゅうなのか」？

17日は「じゅうしちにち」または「じゅうななにち」と読みます。「しち」は7の音読み、「なな」はその訓読みです。ところが最近、17日を「じゅうなのか」と読む人がいるそうです。どうしてでしょう。

「じゅうななにち」と「じゅうなのか」の違いは、「17日」をどのように切るかというところから出てきます。



17(じゅうなな)+日(にち)
10(じゅう)+7日(なのか)

「17日」はもともと「17番目の日」という意味ですから、「17+日」と分けて「じゅうしちにち」または「じゅうななにち」と読むのが自然です。ところが「10+7日」というように分けると、17日が「じゅう+なのか」となります。7日は「なのか」ですから、17日は「じゅうなのか」となってしまうわけです。

このように、「じゅうなのか」は17日をこれまでとは違うところで分けてしまった結果ですが、このように読むのが完全に間違っているかというところというわけでもなさそうです。たとえば14日は「じゅうよっか」、24日は「にじゅうよっか」と発音します。この発音は14日、24日を「10(じゅう)+4日(よっか)」、「20(にじゅう)+4日(よっか)」と分けた読み方です。「14+日」という分け方であれば「じゅうよんにち」と読むことになります。

14日=14+日=じゅうよん・にち
14日=10+4日=じゅう・よっか

14日を「10+4日」と分けて読むのであれば、17日も「10+7日」と分けて「じゅうなのか」と読んでもよさそうなものです。その理屈で行くと、11日、12日、13日も次のようになってしまいます。

11日=10+1日=じゅう・ついたち
12日=10+2日=じゅう・ふつか
13日=10+3日=じゅう・みっか

このような読み方にならないのは、もともとの意味に従って「11+日」、「12+日」、「13+日」と切っているからです。まだ「10+4日」「20+4日」のような分け方が普通ではないということになります。結局、いまのところ例外的な読み方をしているのは14日と24日だけのようです。

11日=11+日=じゅういち・にち 12日=12+日=じゅうに・にち
13日=13+日=じゅうさん・にち 14日=10+4日=じゅう・よっか
15日=15+日=じゅうご・にち

14日(じゅう・よっか)のような読み方は英語にもあります。英語では1日をfirst(ファースト)、2日をsecond(セカンド)、3日をthird(サード)と言いますが、21日、22日、23日、31日は次のように言います。

21日=20+1日=twenty-first(トゥウェンティ・ファースト)
22日=20+2日=twenty-second(トゥウェンティ・セカンド)
23日=20+3日=twenty-third(トゥウェンティ・サード)
31日=30+1日=thirty-first(サーティ・ファースト)

21日のことを英語では「20日(twenty)+1日(first)」と分けているわけです。日本語にたとえてみると、21日を「にじゅう・ついたち」、22日を「にじゅう・ふつか」、23日を「にじゅう・みっか」と言うようなものです。

もっとも英語でもこれが普通というわけではありません。このようになるのは上の4つの日だけで、たとえば11日、12日、13日は日本語と同じように区切ります(th(ス)は「...番目(の日)」という意味です)。

11日=11+日=eleventh(イレブンス)
12日=12+日=twelfth(トゥウェルフス)
13日=13+日=thirteenth(サーティーンズ)